

「あとの回は

イけるよね？」

夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻

七色風香

61





あの日…

なんで
あんなこと
したの？

記憶…

戻ったんだね

学さんの
誕生日で…

望くんが家に
来た時のこと
だけ…







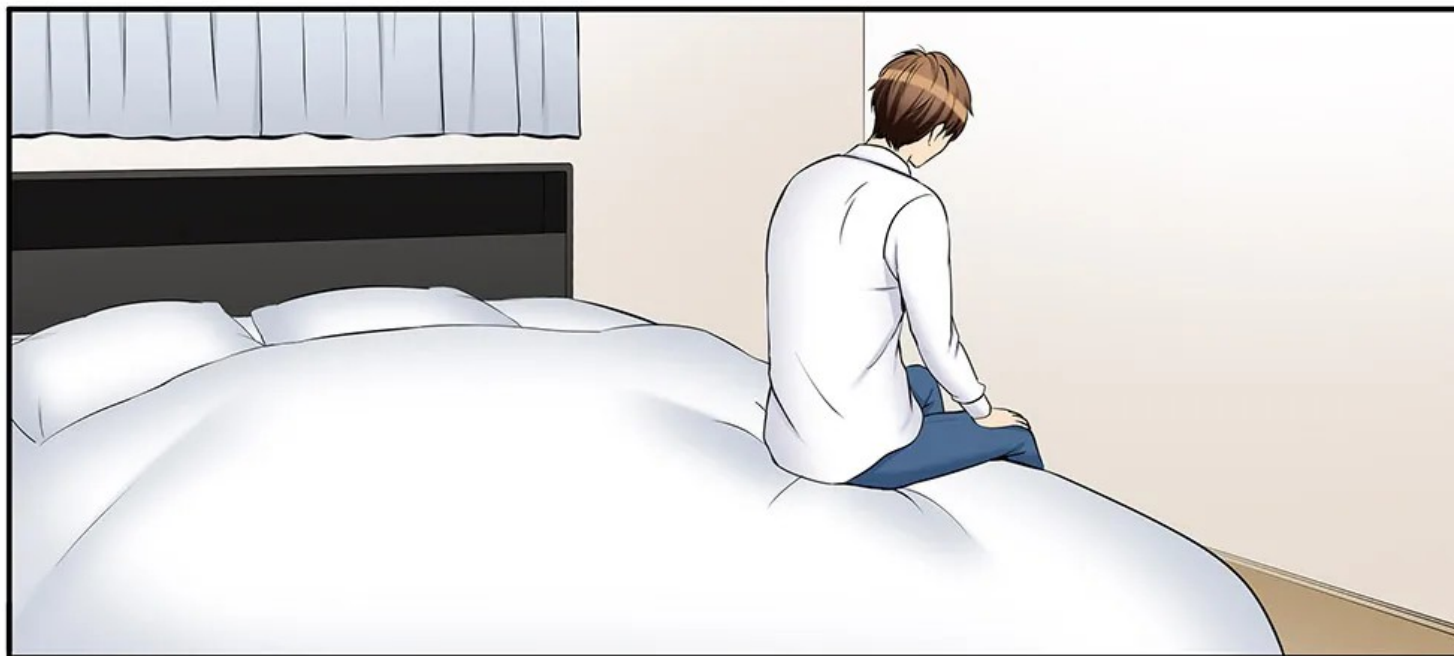
七海ちゃんを
愛してるから

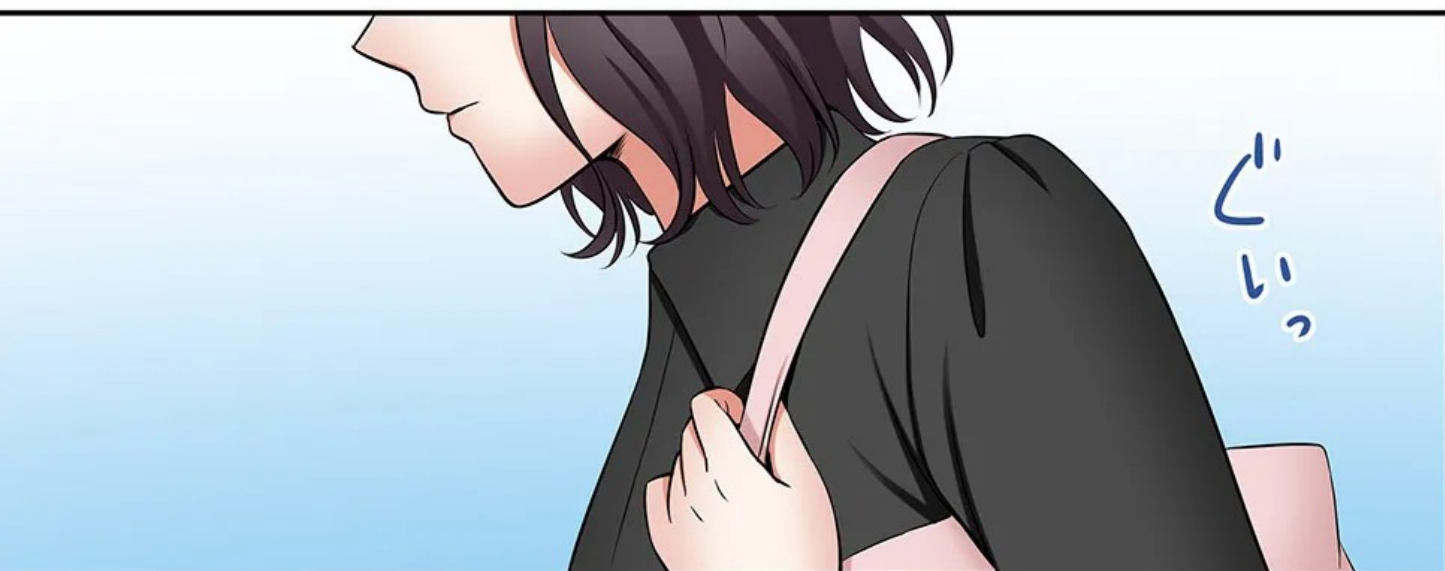
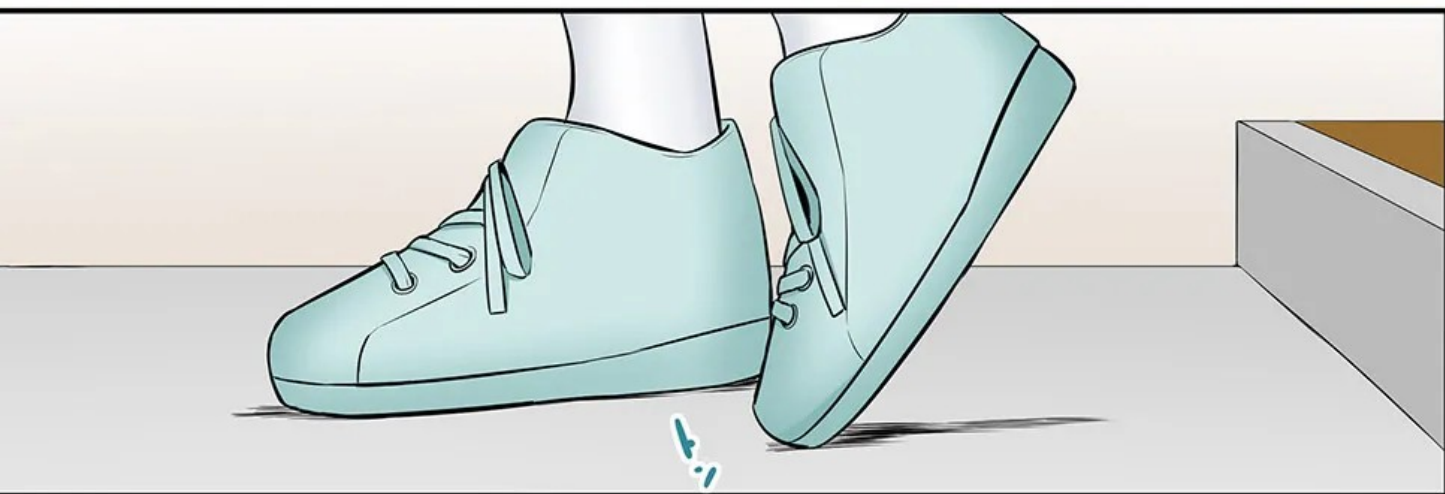


私の知ってる
望くんは

優しくて
誠実で…

失いたく
なかったんだ…！









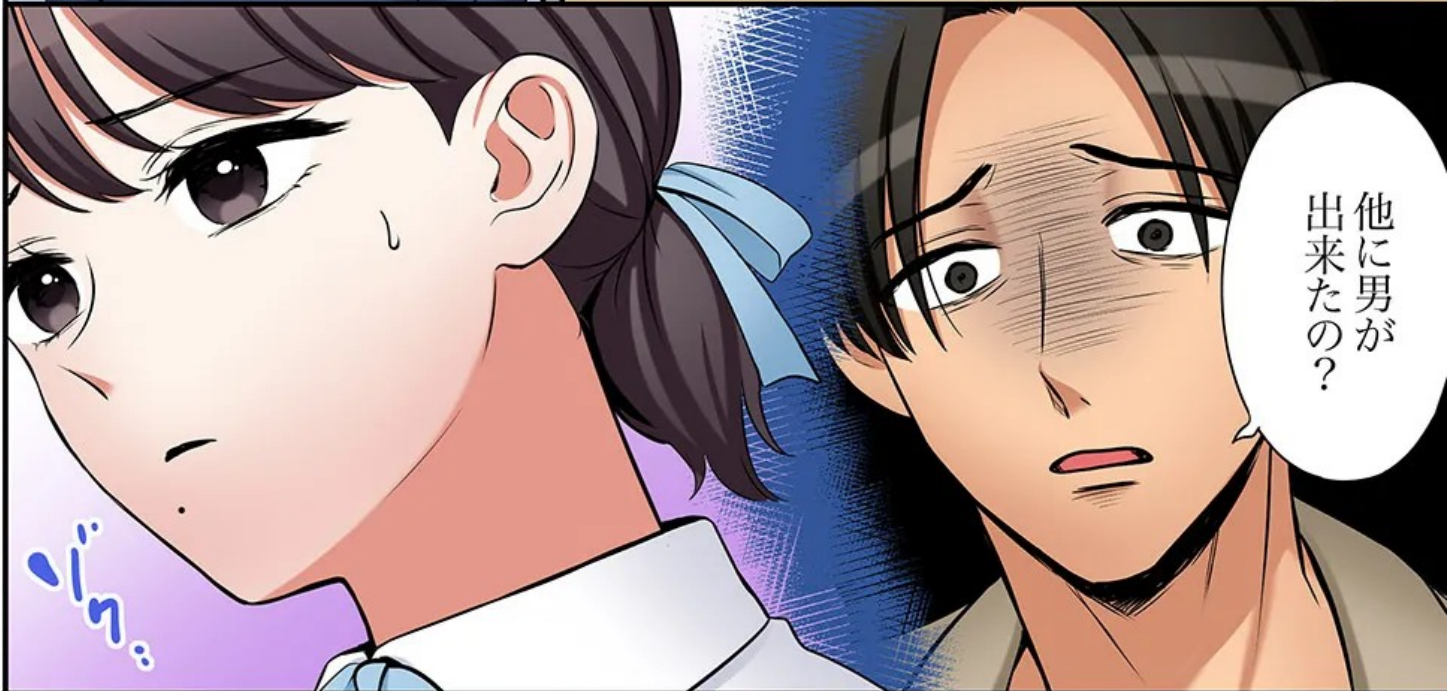
ちらっ



あの人
田村さん
また来てる...



他に男が
出来たの？



正直：

この人と
付き合ってたとは思えない...

ストーカー
だったって...



七海は
どんどん
望に惹かれて
いつて…



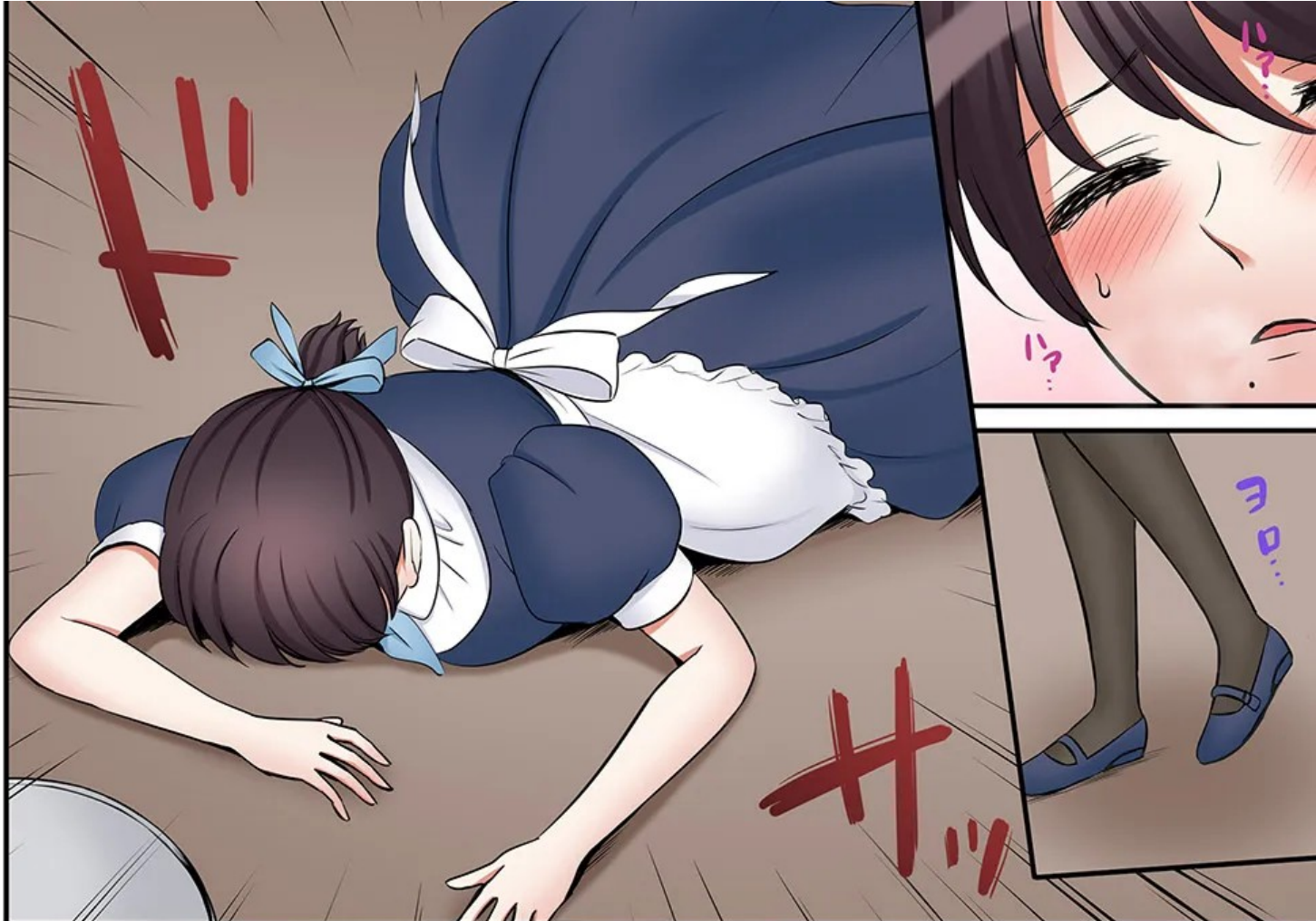
あんなことされたのに



離れようと
しなかったのは
どうして？



そんなにも
望くんの絆が
深かったの…？





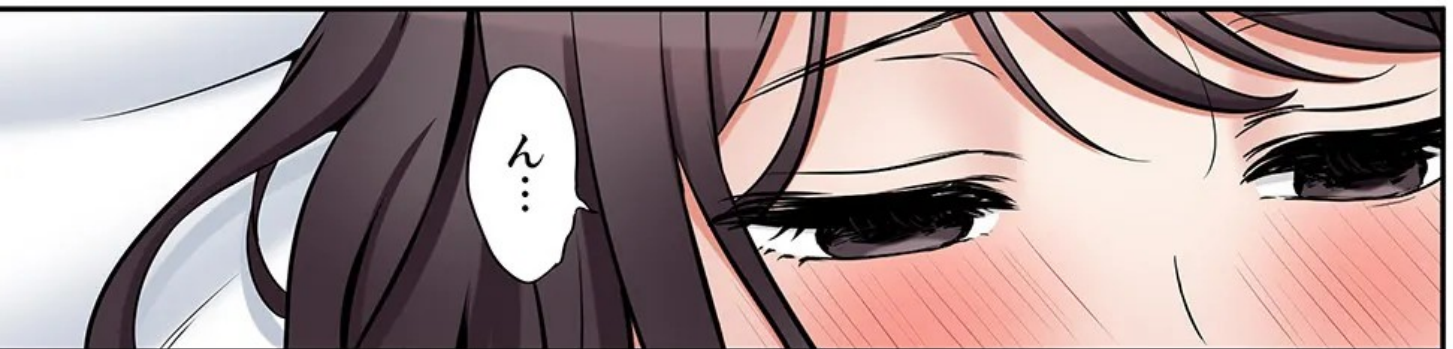
ほんとですか！
助かりますっ

いい

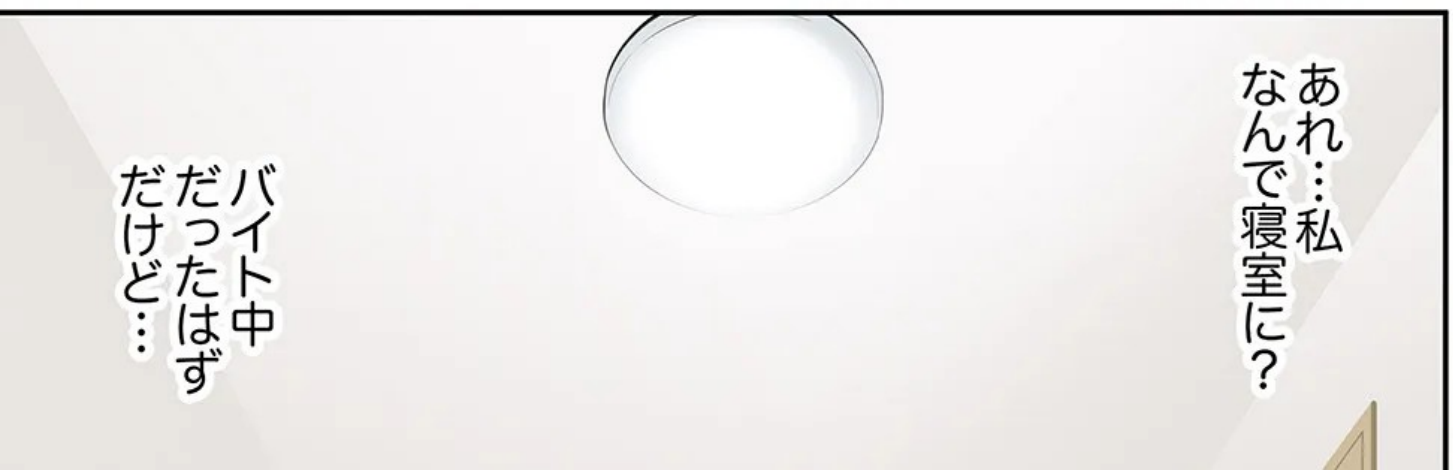


家まで
送りますよ

僕
彼女の知り合い
なんで



ん…



あれ…私
なんで寝室に？

バイト中
だったはず
だけど…



なんでこの人がここに…?

あの…

藤咲さん
バイト先で
熱出して
倒れたんだよ



大丈夫？



あと

風邪に効きそうなもの
薬局で買ってきたから
ここ置いとくね

ありがとう
ございます…



それでお店の人に
君の住所
教えてもらって

僕が車で
送ったんだ

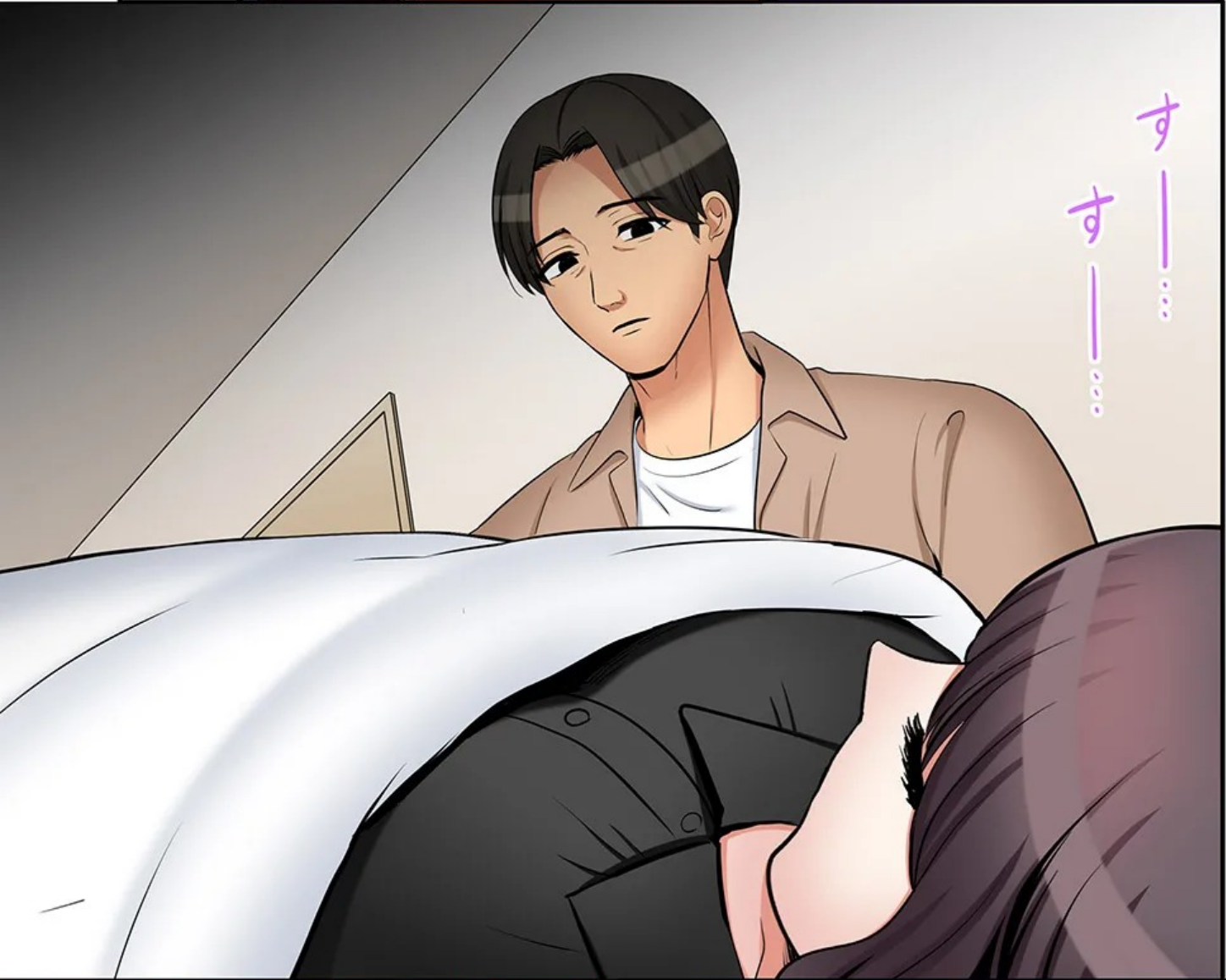


そうだったん
ですか…



田村さん…
こんなに親切に
してくれるなんて…

「ストーカーかも」
なんて思ってた
ごめんなさい…





ここが
君たちの
愛の巣か…

ムカつく
なあ



あの時
藤咲さんが
寝言で言ってた
男のこと
だったのか…

のぞむくん…



「のぞむくん」

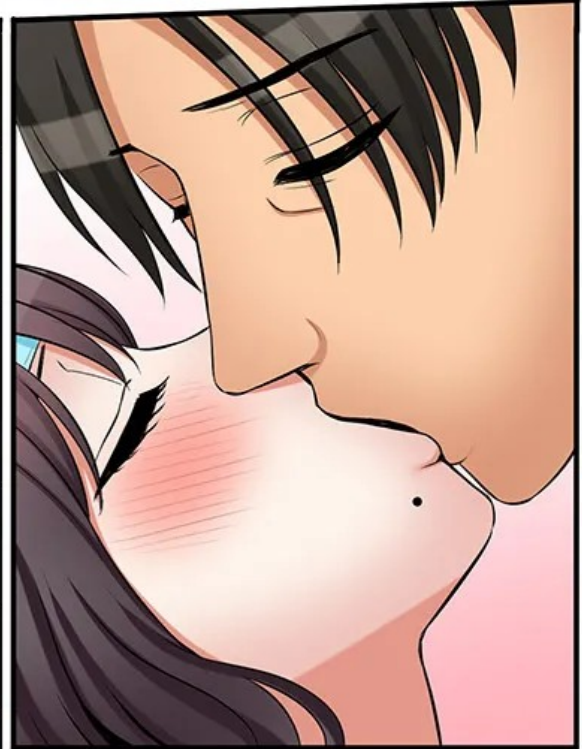
どこかで
聞いた名前
だと思ったら

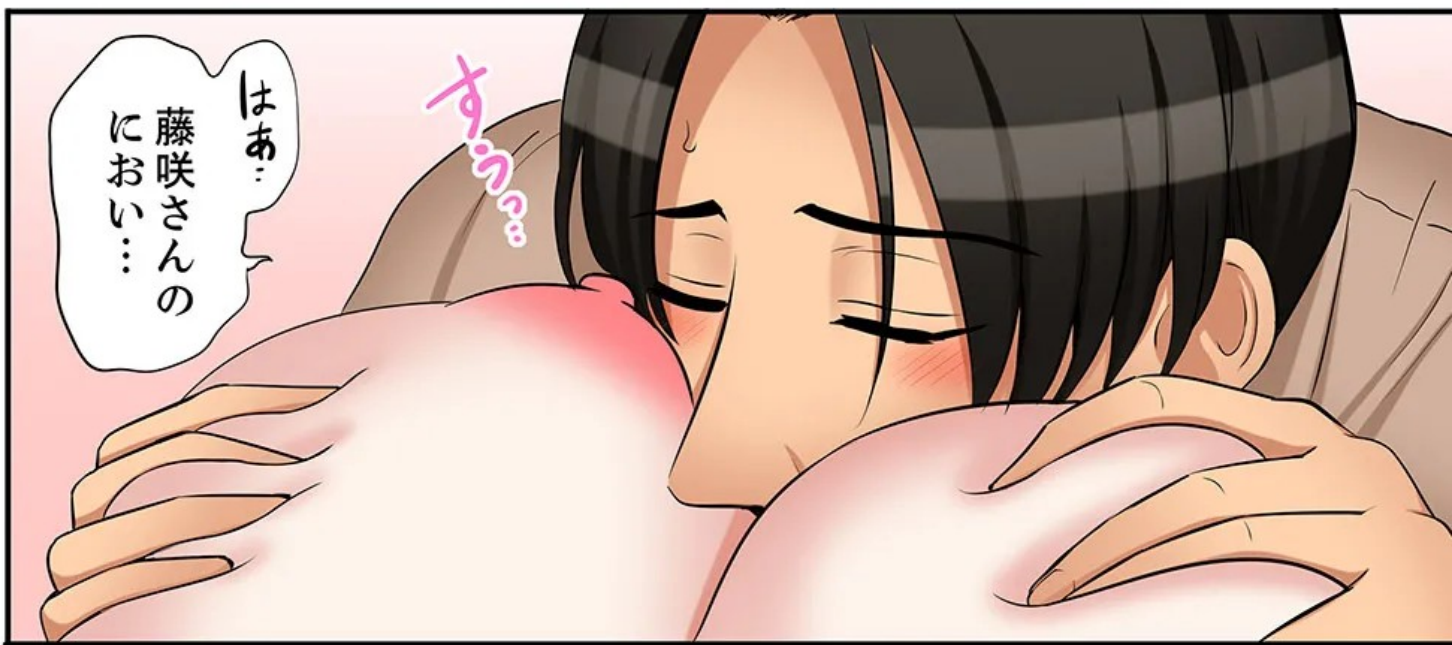


ひどいよ…



僕は君が
戻ってくるのを
ずっと
待ってたのに







挿入いれたくて
たまらないよ…

くしゃっ♡
くしゃっ♡

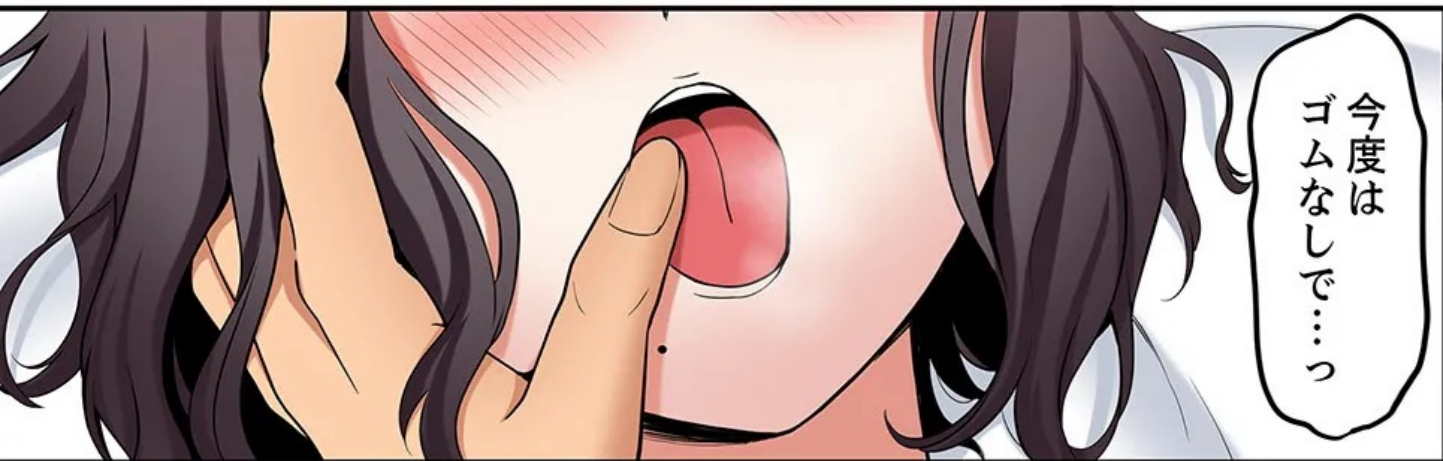


俺は君に

ふっ
ふっ



ビキッ
ビキッ



今度は
ゴムなしで…っ



望あいつも
引き下がる
はず…

君を
孕ませれば





七海ちゃんと
話したい…

「あと3回はイケるよね？」 夫の帰宅前、絶倫義弟に何度も ハメ倒される妻61

著者

七色風香

発行

モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Fuka Nanashiki/MMR

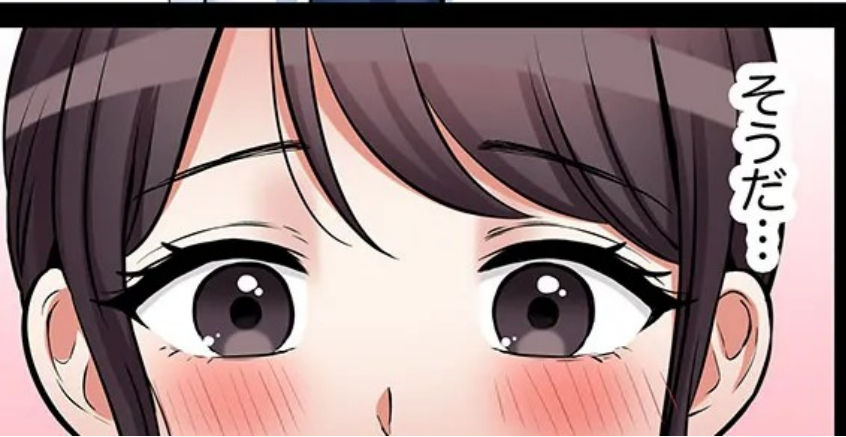
「あとの回は

イけるよね？」

夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻

七色風香

62





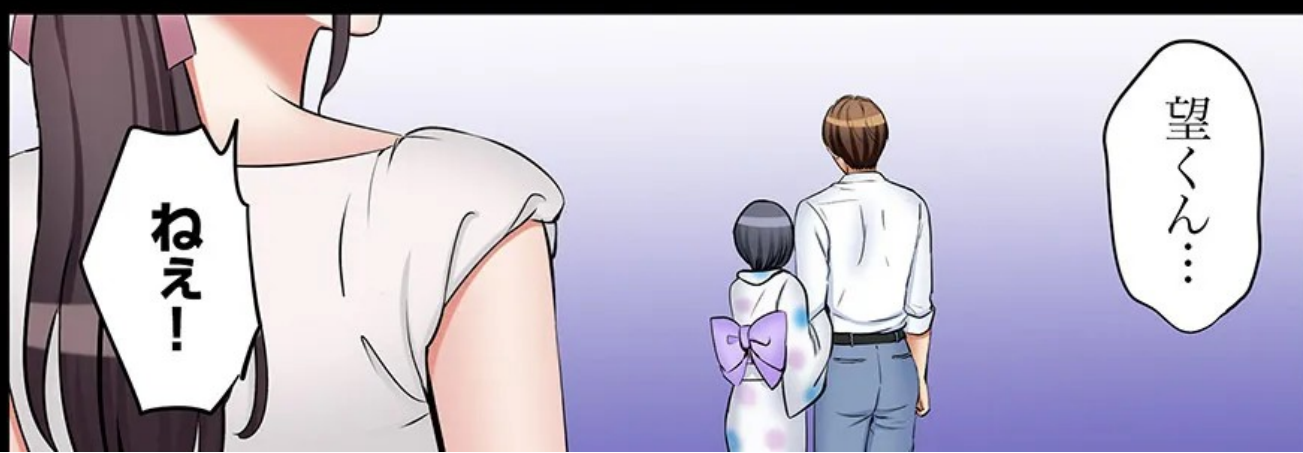
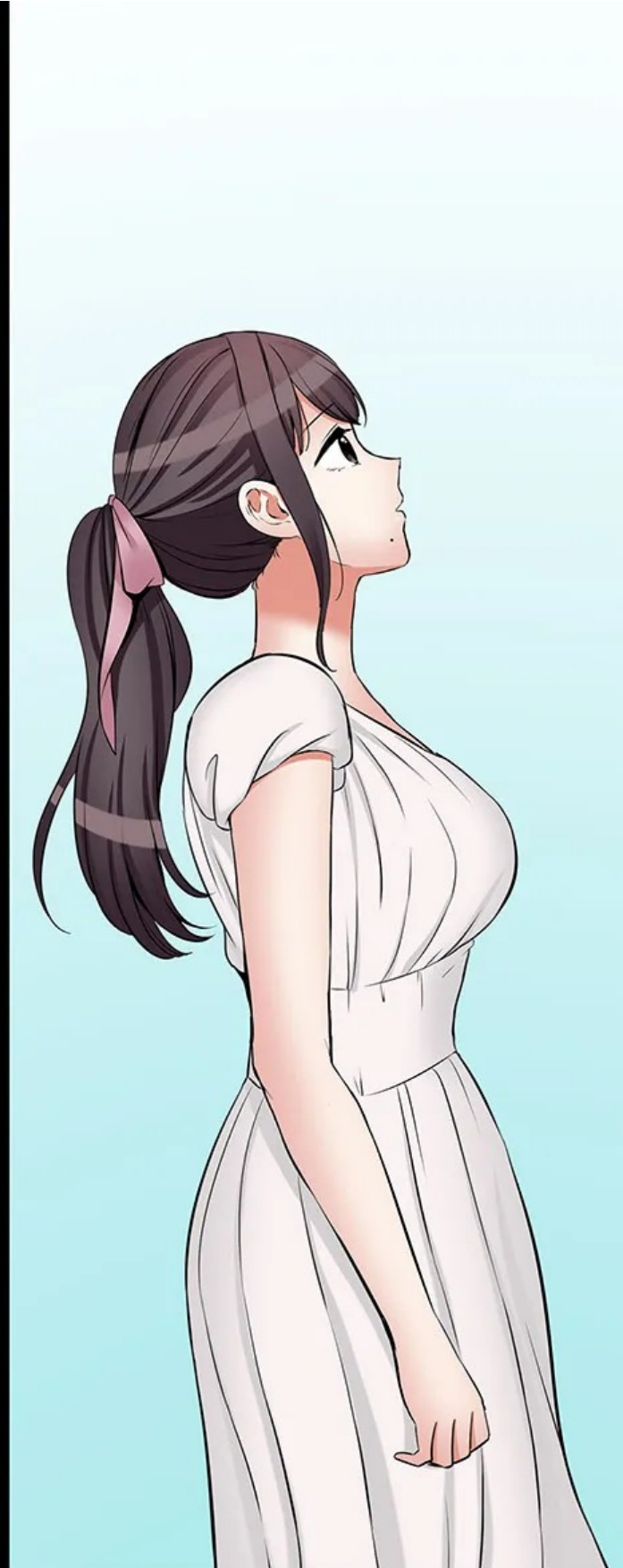




えっ…？



誰といるの…？



望くん…

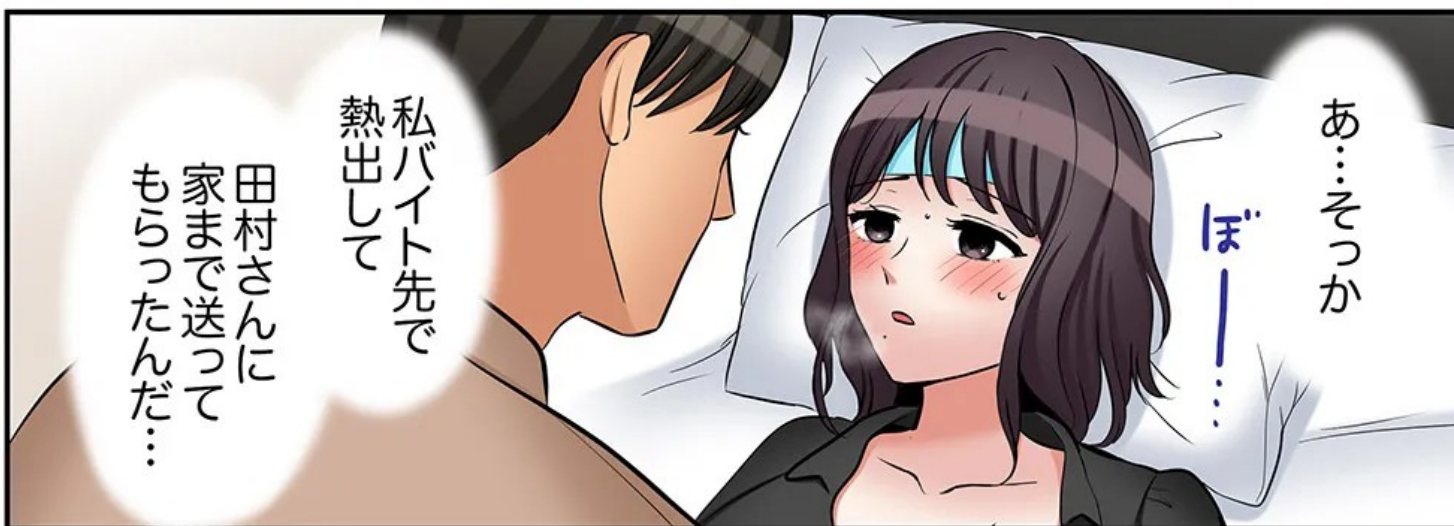
ねえ！





僕が
そばにいるから

え…



あ…そっか

ぼー…

私バイト先で
熱出して

田村さんに
家まで送って
もらったんだ…



ぞわっ

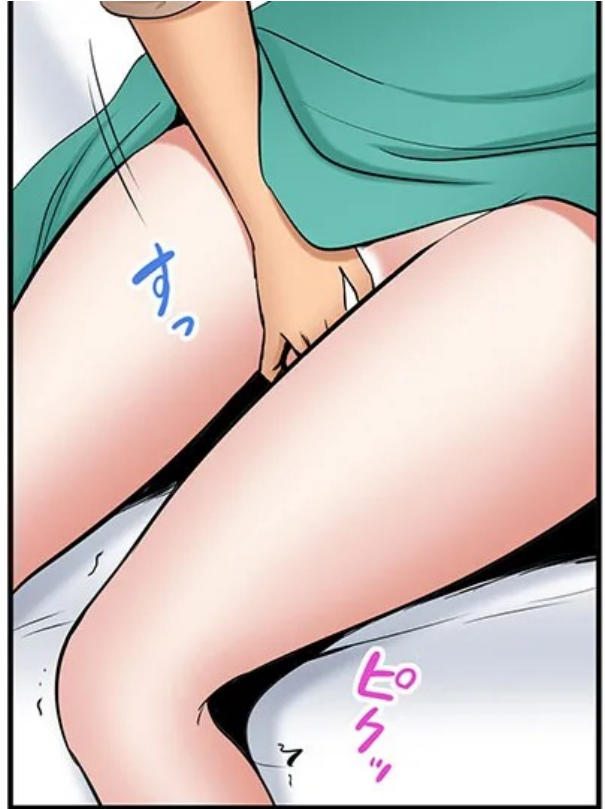
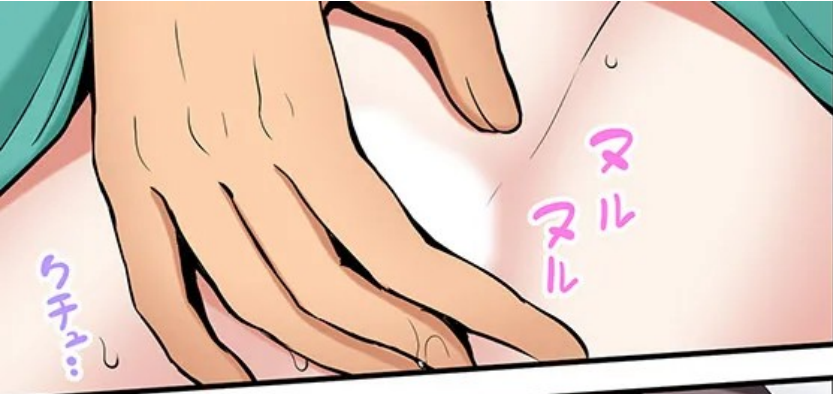
ハッ



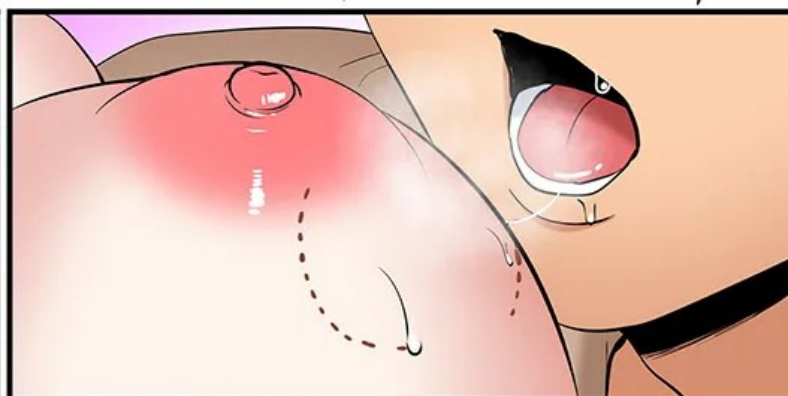
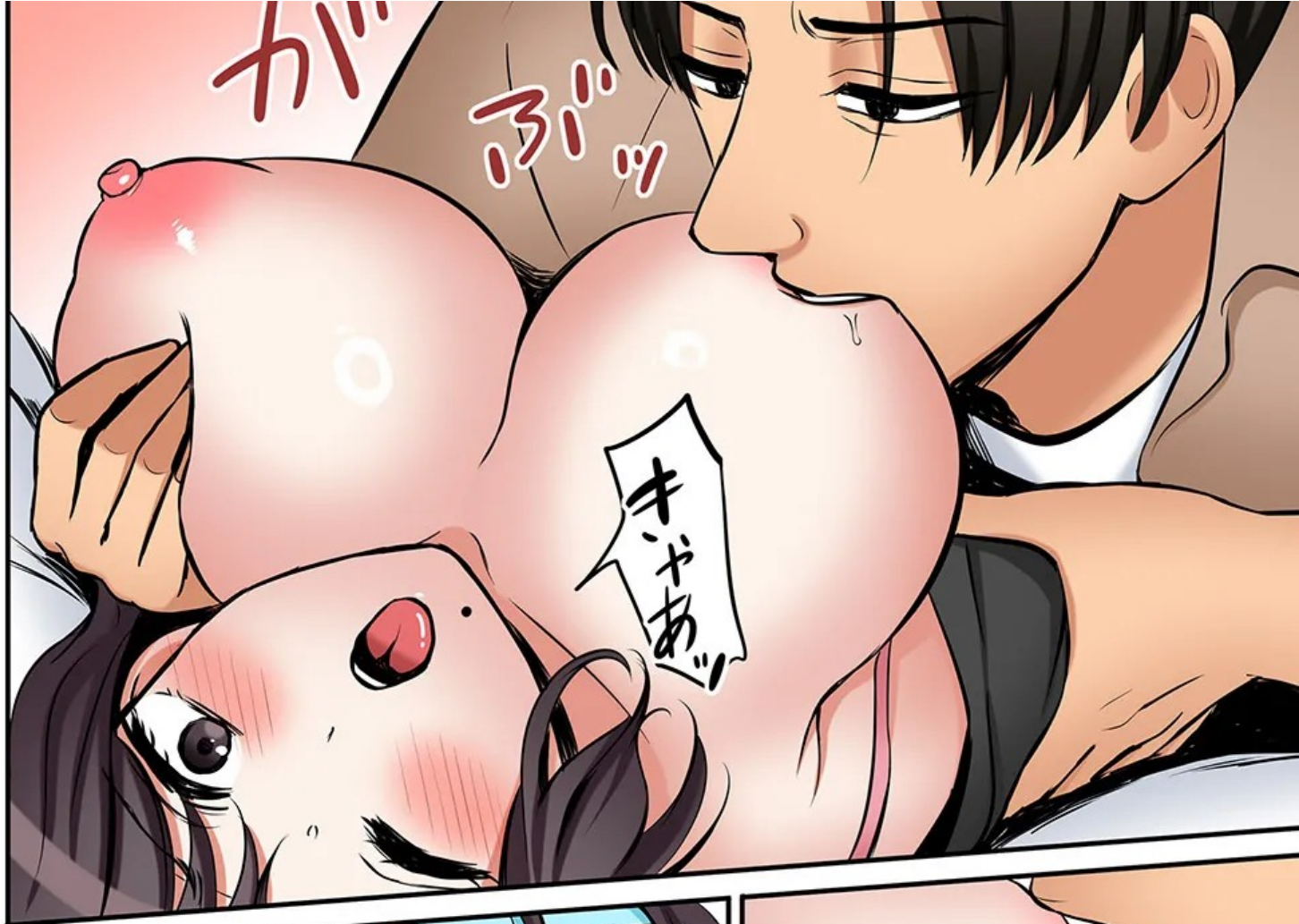
スリ…♡

手
柔らかいね









身体の相性だって
あんなに
良かったんだから...

僕のほうが
君に相応しい
はずだ!



これから

思い出させて
あげるよ

カチャッ

今はもう...

ギシ...

いやっ

あ...

ブルッ

恋人だった
としても

ドンシャッ



ああ…私

大丈夫かい

この人に
職場で

藤咲さん

来ないでっ

!!

恋人同士なんて…

やっぱり
嘘なんですね！

ッ…

出て行つて
ください！

今すぐに！

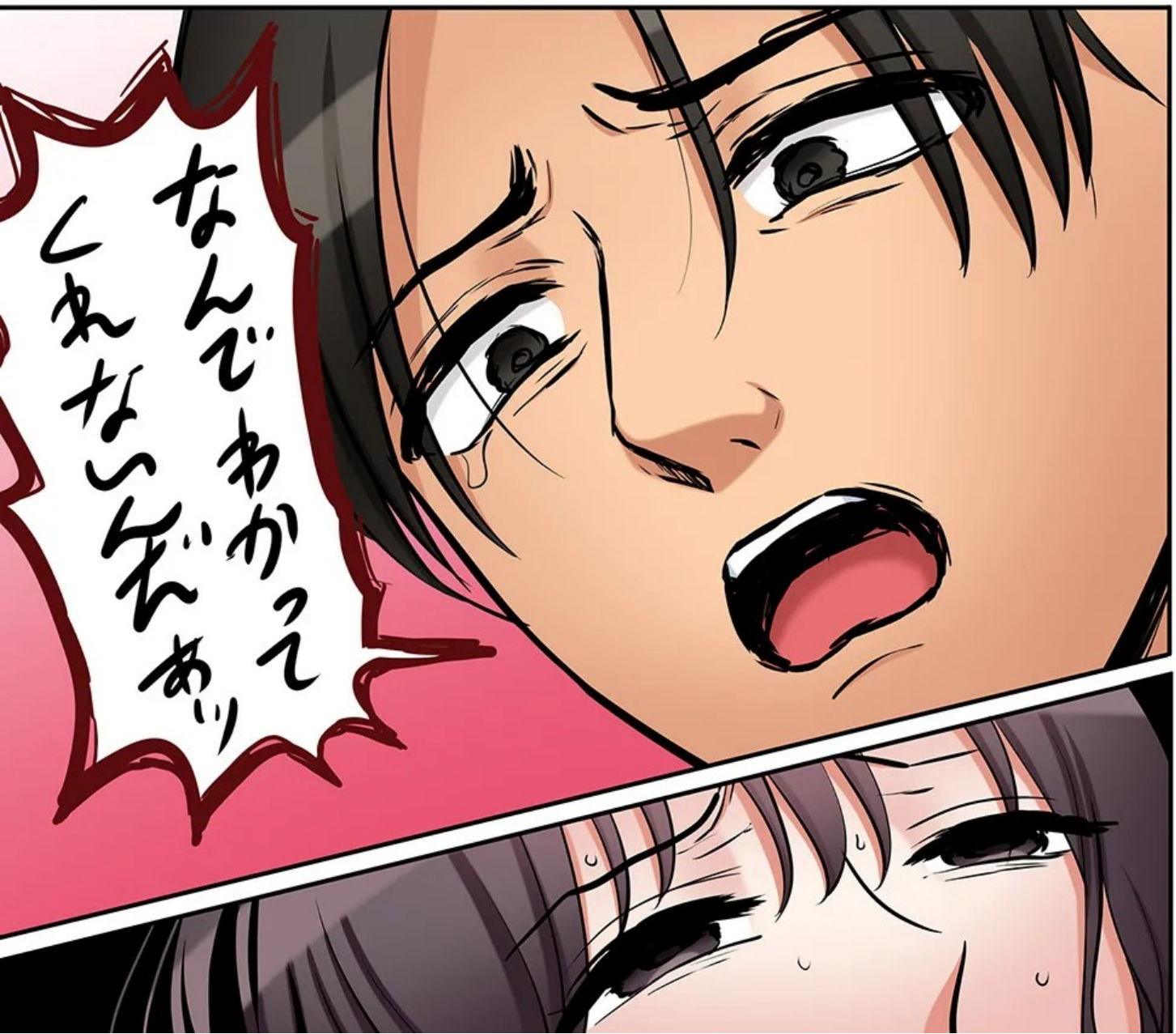
残念…

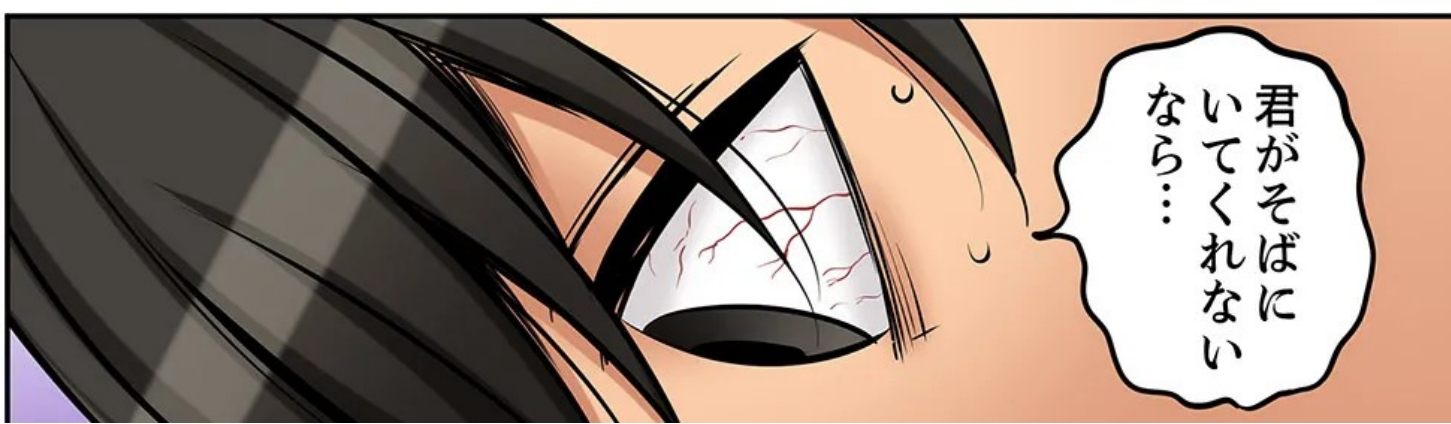
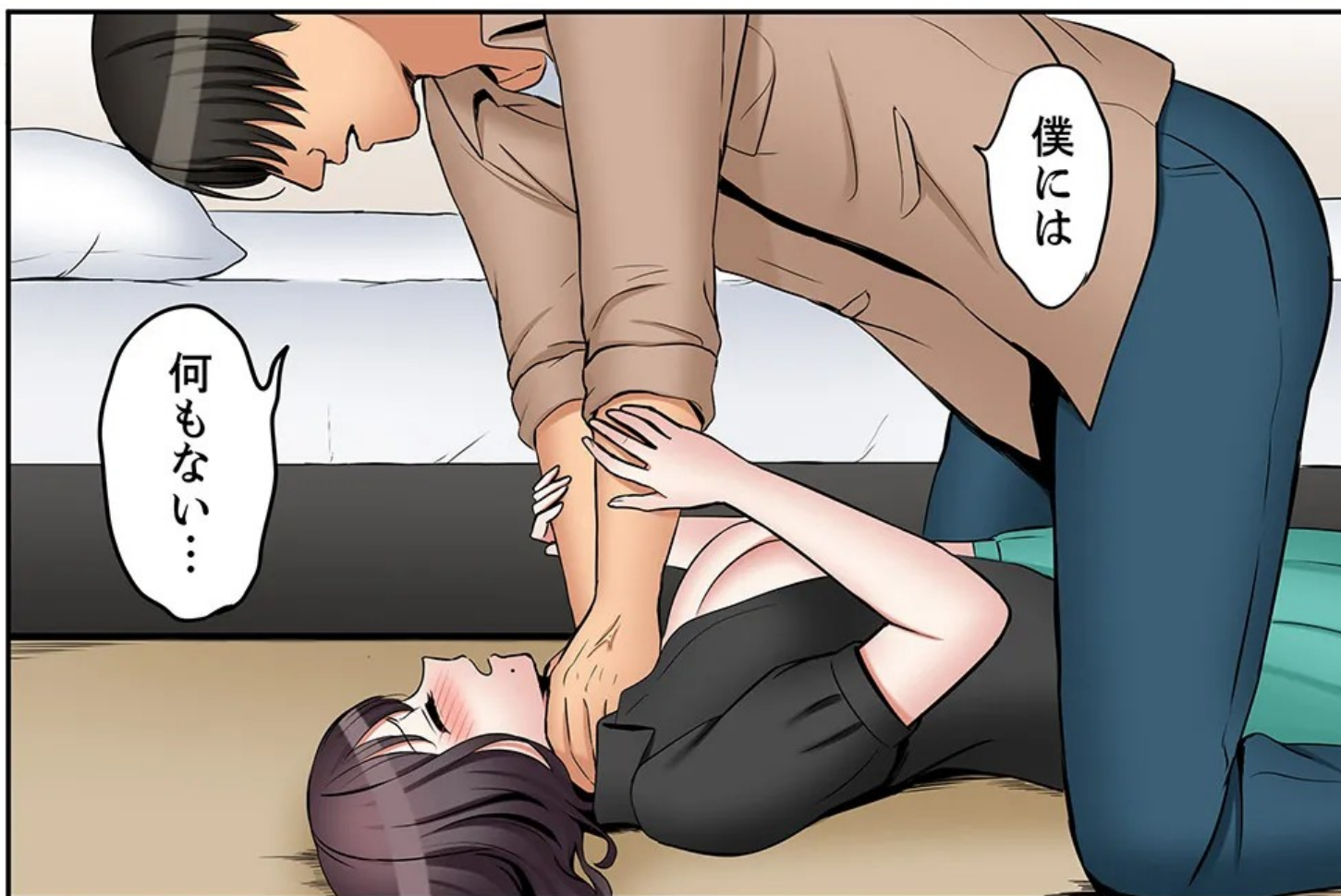
今度こそ
通報しますからっ

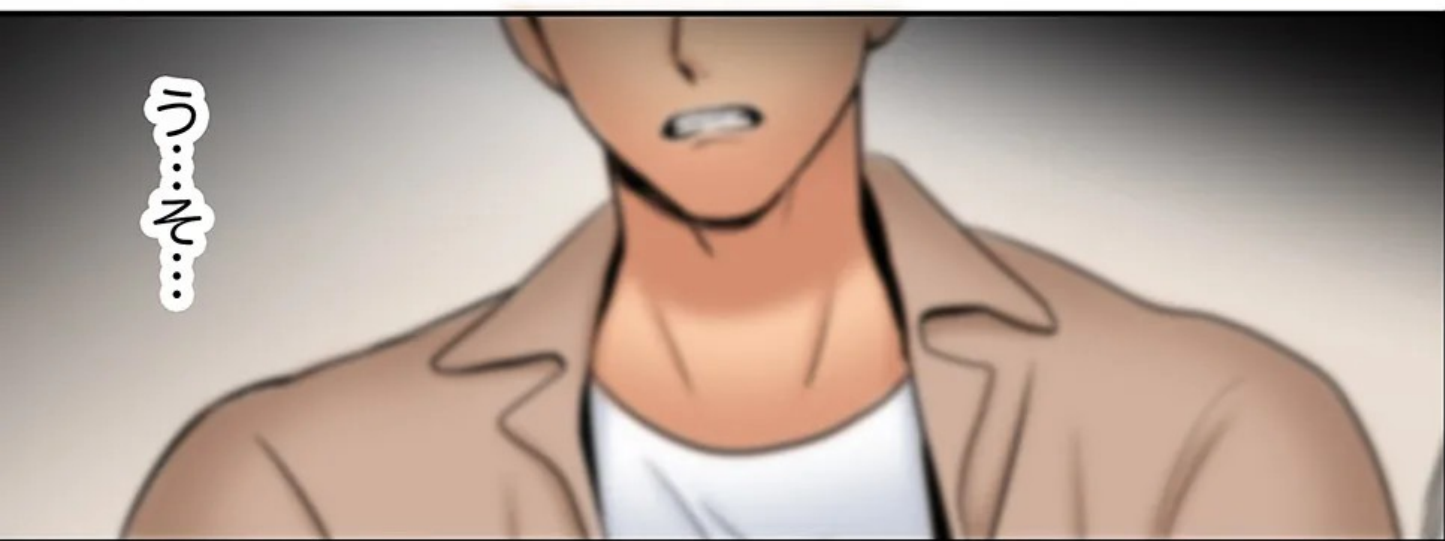
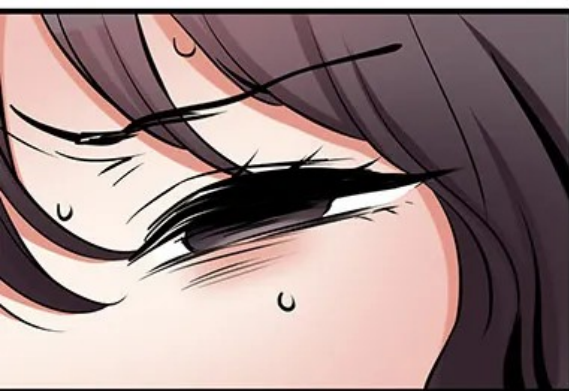
チッ

魔法が
解けちゃったね…









今朝望さんに

笑顔で
「いってきます」って
言えば良かった…



あれ…？



私…死んだの？



まさか
こんな終わり方
するなんて

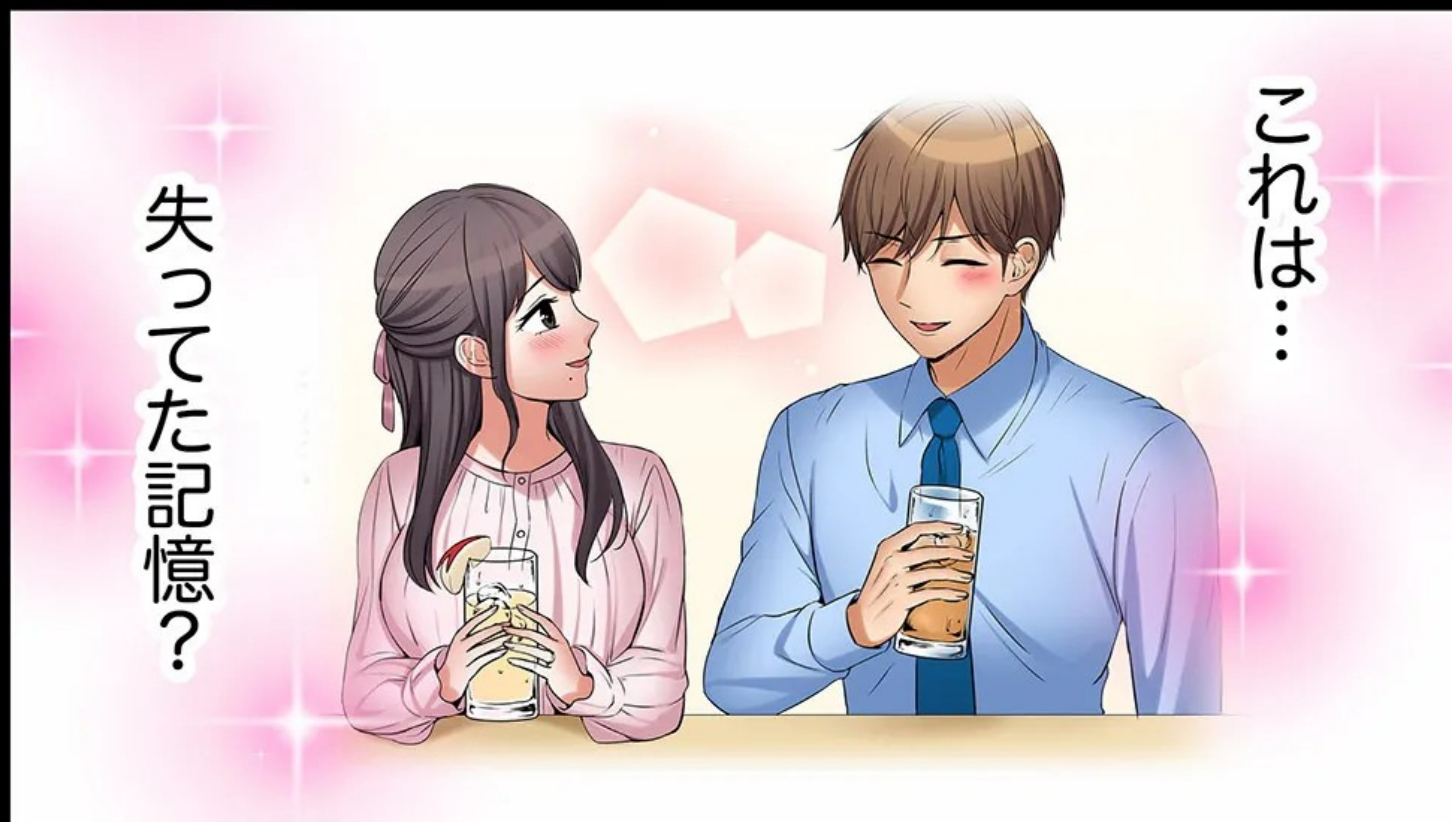
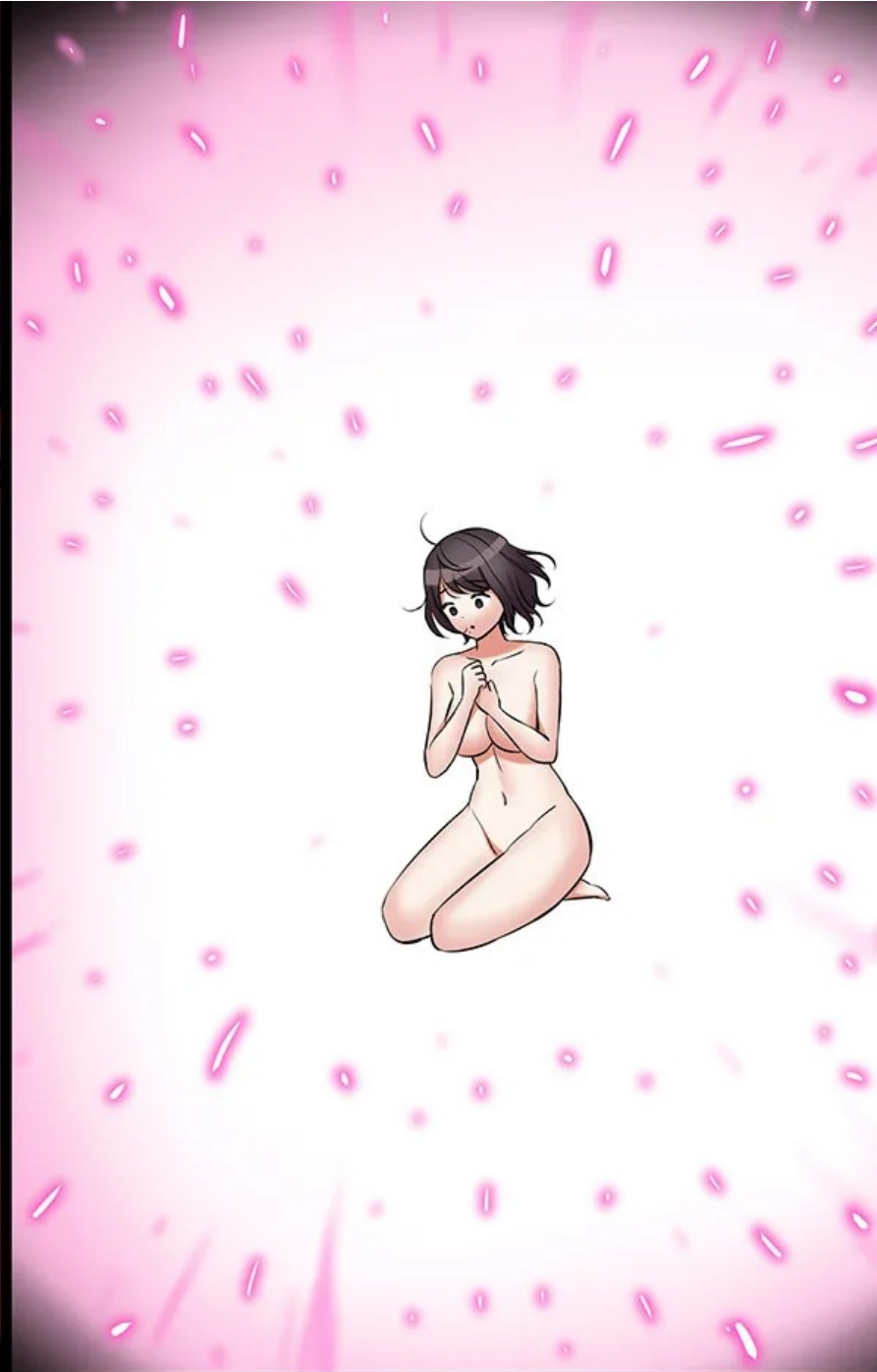
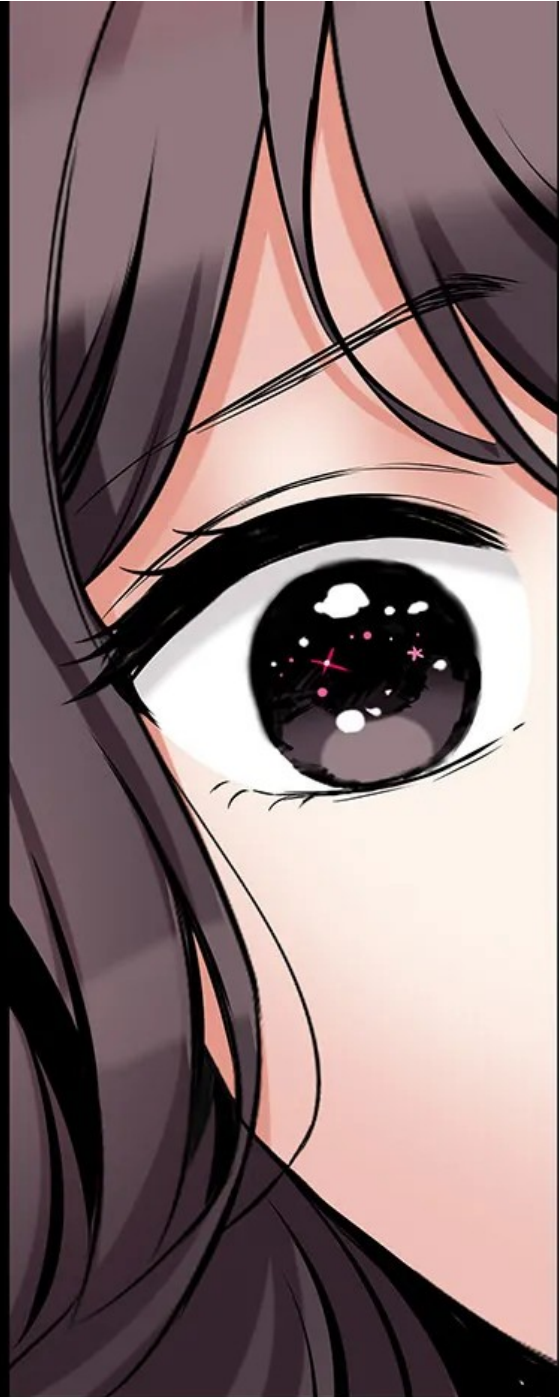


思わなかった…



何…これ？







こんなに

色々なことが
あったなんて…

ビクッ

びく

やっと全部
思い出せた…



私…
自分が思ってた
よりもずっと



望くんのことが
大好きだったんだ…



「あと3回はイケるよね？」 夫の帰宅前、絶倫義弟に何度も ハメ倒される妻62

著者

七色風香

発行

モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Fuka Nanashiki/MMR